

(様式3号)

## 学 位 論 文 の 要 旨

氏名 小室 あゆみ

〔題名〕

Prevalence and characteristics of transesophageal echocardiography-related esophageal mucosal injury in patients with atrial fibrillation who underwent pulmonary vein isolation

(肺静脈隔離術を施行した心房細動患者における経食道心エコー図検査による食道粘膜障害の頻度と危険因子に関する検討)

〔要旨〕

背景：経食道心エコー図検査(TEE)は、心房細動(AF)に対する肺静脈隔離術(PVI)前の左心房(LA)および左心耳(LAA)における血栓の有無の評価を行うゴールドスタンダードな検査である。TEEは比較的安全とされているが、近年PVIに先行するTEEが食道粘膜損傷(EMI)を引き起こす可能性があることが報告された。

目的：PVIを施行したAF患者におけるTEE関連EMIの発生率とその危険因子を検討すること。

方法と結果：3D TEEプローブを用いた術前TEEと術後上部消化管内視鏡検査を受けたPVI患者262人を対象とした。TEE関連EMIは16人(6.1%)の患者(18病変)、PVI関連EMIは5人(1.9%)の患者(8病変)で認められた。TEE関連EMIは上部食道の右側と中部食道の左前側で多く認められた。1人の患者で軽度の胸部違和感を認めた。多変量解析では、高齢はTEE関連EMIの独立した危険因子であった(オッズ比1.08、95%信頼区間1.01-1.16;  $P=0.0274$ )。

結語：3D TEEプローブによるTEE関連EMIは、PVI施行患者の6.1%で認められ、高齢であることはTEE関連EMIの危険因子であった。これらの所見から、特に高齢患者においては、LA・LAAにおける血栓評価として他の画像診断を考慮する必要があるかもしれない。

作成要領

1. 要旨は、800字以内で、1枚でまとめること。
2. 題名は、和訳を括弧書きで記載すること。

## 学位論文審査の結果の要旨

令和 4年 5月 12日

報告番号	乙 第 1104 号	氏 名	小室 あゆみ
論文審査担当者	主査教授	濱野 公一	
	副査教授	白澤 文吾	
	副査教授	矢野 雅文	
学位論文題目名 Prevalence and characteristics of transesophageal echocardiography-related esophageal mucosal injury in patients with atrial fibrillation who underwent pulmonary vein isolation (肺静脈隔離術を施行した心房細動患者における経食道心エコー図検査による食道粘膜障害の頻度と危険因子に関する検討)			
学位論文の関連論文題目名 Prevalence and characteristics of transesophageal echocardiography-related esophageal mucosal injury in patients with atrial fibrillation who underwent pulmonary vein isolation (肺静脈隔離術を施行した心房細動患者における経食道心エコー図検査による食道粘膜障害の頻度と危険因子に関する検討)			
掲載雑誌名 International Journal of Cardiology 第 350 巻 P. 118~124 (2022年3月 掲載)			
著者 小室あゆみ, 和田靖明, 吉賀康裕, 奥田真一, 岡本健志, 福田昌和, 小室拓也, 前田貴子, 木下奈津, 岡村蒼之, 西川潤, 高見太郎, 田中伸明, 矢野雅文			
(論文審査の要旨)			
<p>【背景】経食道心エコー図検査(TEE)は、心房細動(AF)に対する肺静脈隔離術(PVI)前の左心房(LA)および左心耳(LAA)における血栓の有無の評価を行うゴールドスタンダードな検査である。TEEは比較的安全とされているが、近年PVIに先行するTEEが食道粘膜損傷(EMI)を引き起こす可能性があることが報告された。</p> <p>【目的】PVIを施行したAF患者におけるTEE関連EMIの発生率とその危険因子を検討すること。</p> <p>【方法と結果】3D TEEプローブを用いた術前TEEと術後上部消化管内視鏡検査を受けたPVI患者262人を対象とした。TEE関連EMIは16人(6.1%)の患者(18病変)、PVI関連EMIは5人(1.9%)の患者(8病変)で認められた。TEE関連EMIは上部食道の右側と中部食道の左前側で多く認められた。1人の患者で軽度の胸部違和感を認めた。多変量解析では、高齢はTEE関連EMIの独立した危険因子であった(オッズ比1.08、95%信頼区間1.01-1.16; P=0.0274)。</p> <p>【結語】3D TEEプローブによるTEE関連EMIは、PVI施行患者の6.1%で認められ、高齢であることはTEE関連EMIの危険因子であった。これらの所見から、特に高齢患者においては、LA・LAAにおける血栓評価として他の画像診断を考慮する必要があるかもしれない。</p> <p>本論文は肺静脈隔離術を施行した心房細動患者における経食道心エコー図検査の食道粘膜損傷について詳細に検討したものであり、学位論文として価値あるものと認めた。</p>			
備考 審査の要旨は800字以内とすること。			